

2025年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2026年3月10日

九州大谷学園 九州大谷幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・明るく元気にあいさつできる子ども
- ・自分の考えをしっかりと言える子ども
- ・友達とお互いに助け合える子ども
- ・いつでもありがとうを言える子ども

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

2025年度の教育内容に関する全体的な計画を踏まえて、園の理念である一人ひとりが尊重される質の高い教育の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	人の話をよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話そうとする。 自分の気持ちを表現しようとする。	A	子ども会議等を通して、お互いに意見を出し合ったり自分の意見を伝える場を作っていただき、他者の意見にも耳を傾けたり尊重する力がついてきている。
2	一人ひとりの個性をみとめ、共に育ちあうかかわりを充実させる	A	先生方が一人ひとりに向き合い、様々な個性を認め受け入れる姿勢や教育を大切にしていることによって、子ども同士の助け合いの姿が多く見られた。
3	園が進める教育・保育内容への理解や協力をお願いし、保護者とともに育む。	B	時代の流れとともに保育内容にも変化があり、保護者に伝える機会や場を工夫していただいた。親としても理解し対応していかねばと感じている。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	園の願いや教育目標の通りに一人ひとりの存在が尊ばれ、子どもが遊びや活動の中で意欲的に活動できている。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	環境改善 (例)	子どもが安心・安全に過ごせる環境を第一に考えた上で、園庭(園庭改造)や保育室(机・椅子の配置や掲示物等)の改善に向けて研究を進め、子どもがワクワクする保育環境の改善に努める。
2	小学校接続 (例)	近隣の小学校との交流や園での公開保育を実施したり、幼稚園・小学校のお互いの参観を実施する機会を設けるなど、幼稚園と小学校の温度差を埋めたり理解を深める工夫を考え、より良い接続に務める。
3	保育の質の 向上(例)	「子ども主体の保育」を目標として教員研修を充実させ、カリキュラム計画・保育内容・環境・教材等について継続して研究を進める。保育者同士の対話の時間の創出を工夫し、保育の質の向上を目指す。

6. 学校関係者評価委員会の評価

時代にそった保育を取り入れ、子ども達の感受性や表現力を大切にいただいている。親として、最近の子ども達が自分の考えを言葉にして伝える能力が低下していると感じるので、これからもそこを育てていただきこの園の強みにして頂きたい。短大との関わりが充実した保育に繋がっており、様々なことを経験しながら成長できる温かい園であると思う。先生方に感謝しています。